

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472000577
法人名	有限会社 花企画
事業所名	グループホーム湘南の宙と風
訪問調査日	平成 20年 6月 26日
評価確定日	平成 20年 7月 31日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 2 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1472000577		
法人名	有限会社 花企画		
事業所名	グループホーム湘南の宙と風		
所在地	神奈川県平塚市田村 5-3-6 Gタワー3階 (電話) 0463-51-5891		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	平成20年6月26日	評価確定日	平成20年7月31日

## 【情報提供票より】(平成20年 5月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	22 人	常勤	5人, 非常勤 17人, 常勤換算 11.8

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	10 階建て, 3 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~55,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	有( ) 円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,100 円	

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	— 名		
要介護5	1 名	要支援2	4 名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療生協かながわ平塚診療所、久保田歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ・当事業所は、東海道線平塚駅からバスで20分の市街地の10階建てビルの3階にある。
- ・事業所では、利用者一人ひとりの個性と希望を大切に、できることを積極的に日々の活動に取り入れ、健康的な生活の支援を運営方針としている。
- ・医療面では協力医療機関のほか、訪問看護ステーションとの連携体制があり、看護師が毎週訪問して健康管理を行なっている。また、協力歯科医師が随時往診している。
- ・昨年度から、ターミナルケアに取り組み、看取りが行われている。
- ・四季折々の年間行事を企画し、利用者が町内のお祭りや納涼祭に出かけ、地域住民を事業所の餅つきやバーベキューに招待している。
- ・地域のボランティアに、演奏やコーラス、お話し相手などの面で活動してもらっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議で地域情報を積極的に収集し、地域の祭りや老人ホームの納涼祭などの行事に参加した。</li> <li>・昨年度は、ターミナルケアの実践に取り組み、また、ヒヤリハットやケース記録の様式を改善した。</li> <li>・外部評価の結果は、職員に説明するとともに、全家族にも配布している。</li> </ul>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価表は、全職員が参加するケース会議で検討して、管理者が取りまとめた。</li> <li>・なお、年2回自己評価の記載内容をチェックして、サービスの向上に努めている。</li> </ul>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議には、利用者・家族の代表、地域包括支援センター、民生委員、法人代表、及び管理者が参加して、これまでに5回開催している。</li> <li>・会議では、施設の事業計画や運営状況を報告し、新たに取組を開始したターミナルケアについて説明するとともに、家族の意見を聴取してサービス向上に役立てている。</li> </ul>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要事項説明書に、事業所への相談・苦情の申し立て先と、公的機関の窓口を記載しており、入所時家族に説明している。</li> <li>・年に2回開催している家族懇談会には、家族の半数以上が出席し意見交換の場となっている。</li> <li>・運営推進会議でも家族の希望・要望を聞いているが、これまでに苦情は受けていない。</li> </ul>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流では、町ぐるみの大清掃や町内の祭り、だんご焼き、近隣老人ホームの納涼祭などに、利用者と職員が参加し、事業所主催の餅つき大会やバーベキューには、地域住民を招待している。</li> <li>・地域のボランティアに、演奏やコーラス、利用者との対話に来てもらっている。</li> </ul>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・開設当初から、法人との共通理念である「一人ひとりの個性と希望を大切に、健康的な生活を創造してゆく」を採用し実践している。 ・利用者が家族や地域の人々との交流を通じ、自分らしくその人のペースで自由に暮らし続けられるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は2階の事務室に掲示している。 ・職員会議やケース会議で話し合っって理念の共有を図り、日々のサービス提供場面に活かすように努めている。 ・利用者、家族には契約時に事業所の理念を説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域との交流事例として、町ぐるみの大清掃、町内の夏祭り、だんご焼きや近隣の老人ホームの納涼祭に、利用者や職員が参加している。 ・事業所主催の餅つき、バーベキューには地域住民を招待している。行事の折、近隣に焼き芋を配っている。 ・演奏やコーラスなどの余暇活動に、地域のボランティアの支援を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価表は、全職員が参加するケース会議で検討して、管理者が取りまとめた。 ・外部評価の結果は職員に説明し、全家族と運営推進会議にも配布している。また、自己・外部評価結果共に、誰でも見られるように玄関に置いている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 ・前記管理者が認知症介護、制度改正の研修講師を務めている。	・運営推進会議には、利用者・家族代表、地域包括支援センター、民生委員、法人代表、及び管理者が参加している。 ・会議では事業計画や運営状況を報告し、ターミナルケア、地域とのかかわりなどを話し合い、家族の要望や意見を聴取してサービス向上に役立てている。		

湘南の宙と風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の介護保険課の担当者には、事業運営に関する相談に乗ってもらっている。また、利用者の件で、生活福祉課とは連絡を密にしている。</li> <li>・法人代表が平塚市と医師会の要請を受け認知症介護などの研修の講師を務めている。</li> <li>・事業所は、神奈川県グループホーム協議会の幹事を務め、平塚市グループホーム連絡会の会議や研修に参加している。</li> </ul>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の来訪時に、利用者の暮らしや健康状態を説明し、突発的な病気やケガのときは、電話で連絡している。</li> <li>・月1回「近況報告」を家族に郵送し、隔月に、ホーム便り「湘南宙と風」を発行して利用者の暮らしを報告している。</li> <li>・散歩途中に使う小遣いについては、事業所で立て替え、明細書を家族に送り、毎月清算している。</li> </ul>		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要事項説明書に、事業所への相談・苦情の申し立て先と、公的機関の窓口を記載しており、入所時家族に説明している。</li> <li>・年2回開催する家族会には、半数以上の家族が出席している。</li> <li>・運営推進会議でも家族の意見や要望を聞いているが、苦情はこれまで受けていない。</li> </ul>		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が異動する場合は、引継ぎに十分な余裕をとり、利用者の不安解消に配慮している。</li> <li>・職員の定着率がよく、利用者に安心感を与えている。</li> </ul>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用時と現任者の研修は、法人代表と管理者が行っている。外部研修は、事業所の経費負担で、神奈川県グループホーム協議会、平塚市グループホーム連絡会の各種研修を受講している。</li> <li>・受講者は研修報告書を作成して事業所内で発表し、職員間での共有を図っている。</li> </ul>		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県のグループホーム協議会、市のグループホーム連絡会に加入しており、同業者間で運営問題を討議したり、交換研修を行いサービスの質向上に取り組んでいる。</li> <li>・法人代表が平塚市と医師会の要請を受け、認知症介護などの研修の講師を務めたこともある。</li> </ul>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居希望者には、見学にてホームの雰囲気を見てもらい、徐々に馴染めるように工夫している。 ・入居後は利用者が馴染み落ち着くまでは、家族に訪問の機会を多くするよう、協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者と職員は、日常的に調理、片付け、掃除、洗濯物たたみなどを一緒に行い、家族同様に生活しお互いに支え合っている。 ・家族同伴でのバス旅行や誕生会、家族懇談会後の食事や餅つき、歌謡会などで喜怒哀楽を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者と家族の思いや意向は、入居時の面談によるフェースシートとアセスメントシートで把握している。 ・利用者の日々の行動を観察してケース会議で話し合い、全職員が情報を共有している。意向把握が困難な利用者には、声かけし表情を読み、また、家族から思いや意向を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画作成のカンファレンスには非番の職員も参加して、利用者・家族の意向を確認し、認知症専門医にも意見も聞いて、残存機能を引き出すよう努力している。 ・利用者の視点に立った個別で具体的な介護計画を作成し、結果は家族に送付して同意をもらっている。 ・ケース記録は介護計画に沿って記入している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・心身の状態が安定している利用者については、6か月に1回介護計画の見直しを行っている。 ・状態の変化を察知した場合は、随時カンファレンスを開催して介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療面では協力医療機関のほか、医療連携体制加算により訪問看護ステーションと24時間緊急対応が可能である。</li> <li>・看護師が週1回訪問し、健康管理を行っている。</li> <li>・利用者が入院した場合でも、病院のソーシャルワーカーや家族と連絡をとり早期退院を支援している。</li> </ul>		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は希望により、入居前のかかりつけ医と、事業所が契約している協力医を選択することができる。</li> <li>・月2回、協力医療機関の内科医の往診がある。歯科は、必要に応じて随時往診している。</li> <li>・利用者と職員の健康診断とインフルエンザの予防接種は年に1回行われている。</li> </ul>		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーションとの連携体制があり、重度化した場合やターミナルケアについても対応可能である。</li> <li>・利用者・家族には、法人のターミナルケアに関する「対応指針」を説明し、職員には、ターミナルケアの研修を行っている。</li> <li>・これまで、利用者に対しターミナルケアを行った経緯があり、現在も対応している。</li> </ul>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーについては、家族と利用者には、入居時契約書で説明し、職員には採用時に個人情報保護規程を説明して、誓約書を取り交わしている。重要書類は事務室に施錠して保管している。</li> <li>・職員は、マナー研修で利用者の尊厳の維持の重要性を学習し実践している。訪問調査日の職員態度、言葉使い、トイレ誘導は、穏やかでさりげなく支援していることが確認できた。</li> </ul>		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所のスケジュールを優先するのではなく、利用者一人ひとりのマイペースでの暮らしを支援している。</li> <li>・食事時間や就寝時間も自由であり、晩酌・喫煙にも家族と医師に相談しながら対応している。</li> <li>・行事、買い物、散歩も利用者の希望に沿って支援している。気が合う同士で歌をうたうなど、笑顔の絶えないホームである。</li> </ul>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事中はテレビを消してBGMを流し、利用者と職員が会話をしながら食卓につき、同じものを食べている。 ・献立には、利用者の希望を入れたり、また、市民農園で収穫した旬の野菜を調理している。 ・利用者は調理、配膳、下膳などを行っており、職員は介助が必要な利用者の隣に座り、さりげなく介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴回数は、最低週2回であるが、大半の利用者は一日おきに入浴している。入浴を拒否する人はいない。介助の必要がない人は毎日入浴している。 ・入浴を楽しんで貰うため、ゆず湯・菖蒲湯を用意している。 ・同性介助の希望にも対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・面接シート、アセスメントシートに一人ひとりの能力を記載し、ケース会議で利用者の得意なことやできることを職員間で共有している。 ・ユニット毎に日々の楽しみ方があり、歌をうたう、ドミノ、貼り絵などその時々々の要望を満たす支援を心がけている。特に市民農園の収穫を楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・気晴らしや外気浴のため、職員が毎日付き添い買い物や散歩に出かけており、外出を通じてのリハビリにもなっている。 ・ユニット合同での日帰りバス旅行、花見、七夕祭、毎月の外食にも出かけている。外出時の楽しそうな写真がリビングに掲示されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・1階玄関は、利用者、家族に説明して防犯対策のため施錠している。中からは開けることができる。 ・3階玄関は階段があり危険なので、センサーによるチャイムと見守りで対応している。 ・ユニットの玄関と、居室には施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・火災を想定した避難訓練を年に2回、地震想定での避難訓練と消火訓練を年に各1回実施し、利用者を駐車場まで誘導している。 ・近隣に居住する職員が多く緊急連絡網で多数参加し、炊き出しも行なっている。 ・非常食と飲料水は3日分備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人ひとりの摂食量を記録している。</li> <li>・栄養士の職員が利用者の嗜好を聞いて、栄養バランスやカロリー計算をし、毎日のメニューに反映している。</li> <li>・嚥下体操を日課にしている。一人ひとりの状態に合わせて、刻み食・ミキサー食などが提供されている。毎日の排泄・バイタルチェックの結果を記録している。</li> </ul>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共用空間の家具や照明は一般家庭と同じものを使用し、エアークリーナー加湿器もあり明るく清潔である。</li> <li>・玄関、リビング、階段には季節の草花や利用者の作品が飾られている。テレビ、BGM、絵画、レクリエーション用具が置かれ家庭的な雰囲気がある。階段昇降機があり、トイレや洗面台は広く車椅子に対応している。</li> </ul>		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時の説明で、使い慣れた愛着のある家具などの持ち込みを勧めている。</li> <li>・居室には馴染みのベッド、整理だんす、テレビ、人形、写真、仏壇、三味線などが持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫をしている。</li> </ul>		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム湘南の宙と風
(ユニット名)	湘南の宙
所在地 (県・市町村名)	神奈川県平塚市田村 5-3-6 Gタワービル 3F
記入者名 (管理者)	益井正純
記入日	平成20年5月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	○	<p>運営推進会議には、家族代表のみの参加の促しだけでなく、ご家族全体に参加して頂けるようにお知らせを送付しより多くのご家族が参加できるように働きかけている。また、民生委員の協力を得て自治会長を紹介して頂き、理解を深めて頂く機会が設けられている。今後も地域の方への働きかけに努めて行きたい</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	<p>近隣の方との交流に関しては、挨拶や畑での交流も深めて向上してきている。行事を行っている際には、気軽に立ち寄ってくれる方も増えてきた為、今後も地域の方との交流に努めて行きたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>地域の方との交流に関しては、向上してきているが、地域行事に関してこれからも継続的に参加に努めて行きたい。</p>

グループホーム 湘南の宙

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者への働きかけは行っていないが、民生委員より地域給食会等の際にレクリエーション器具の貸出しの希望の話も聞かれている為、了承している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の改善項目については、職員へ説明を行い改善に向けての働きかけている。また、外部評価の結果については、会議の席で全体へ報告を行い、外部評価にて提出した書類や結果表に関しては、職員が常時見ることができるようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね3～4ヵ月程度の間隔で実施している。参加者の意見や質疑に答えながら行っている。民生委員からは、地域行事の情報ももらいながら地域行事への参加に活かしている。	○	定期的な開催に努め、より地域に根ざせるGH作りを中心に掛けていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームとしても市介護保険課職員への参加依頼、また、市GH連絡会からも参加へ向けての話をを行ったが、市介護保険課としては、地域に根ざす地域包括への参加が望ましいと話があり、継続的に地域包括支援センター職員が参加。情報交換としては、市GH連絡会にて行っている。		運営推進会議の際に、ご家族から頂いた意見についても市担当者へ伝え、市職員から回答すべき議題があれば、出席も検討するとの話あり。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に関しては職員の参加があり、必要な利用者に関しては、市担当者と協議し、利用している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関しては、積極的に学ぶ機会を作っていないが、身体拘束に関しては、理解が深まるように、職員会議を用いて周知している。身体拘束マニュアルは、見直しを行い新たな物の周知に努めている。		

グループホーム 湘南の宙

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、説明には十分な時間をとり、理解が得られるように努めている。また、説明後に対しても疑問等の確認を行いながら契約を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>会話の中でも情報が収集できるように配慮している。また、外部としては、介護相談員を導入している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の突発的な状況の変化に対しては、電話にて報告し、その他、日常生活の報告は、近況報告として書面にて月に1度送付し、行事や全体に関わる事については、通信として作成し、隔月にて送付している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族懇談会を年に2回行い、GHの状況報告を行っている。また、その中で、質疑として時間を作りご家族からの意見徴収ができる機会を作っている。また、運営推進会議では、家族代表だけでなく、ご家族全体に開催のお知らせを送付し、参加をお願いしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者が、職員の意見を聞き運営者へ報告している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に合わせて対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職で対応職員が変わっても、同じ支援が継続できるように、引継ぎに努め配慮している。</p>	

グループホーム 湘南の宙

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々の職員に応じた研修の参加について、代表と協議し適宜職員の研修参加に努め、内部研修についても同様に全体職員に対し、必要な研修の実施に心がけている。</p>	<p>○</p> <p>運営者と協議の上、内部研修を適宜開催することに努め、職員育成に力を入れて行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協議会に加入し、研修参加や同業者との交流の機会を持ち、市システム会議内のグループホーム連絡会での意見交換や研修参加等により交流の機会を持っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員からの悩み等の聞き入れやアドバイスをし、働きやすい環境作りに努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営目標を個々の職員が作成し、その目標が達成できるように、目標面接を実施している。運営者は、目標面接が適切に行えるように管理者へアドバイスや支援をしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接を行い、その際に本人が困っている事も含め、状況の確認を行っている。利用開始日には、面接を行った職員が迎えることが出来るように配慮している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談を受け、利用する方の状況の確認をし、施設見学の際にも本人の状況の確認や家族の思いを聞き入れ、利用に当たっては不安の有無を確認し、安心して頂けるように努めている。</p>	

グループホーム 湘南の宙

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を行った情報を元に職員へ支援内容や注意点を報告し、入居後に会議を開催して、他職員の情報や意見を含み支援計画を作成している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時にご本人に入居の確認を行っている。状況によっては、体験入居を行い、GHの状況の理解や雰囲気を感じて頂く事も可能。また、ご家族からの情報も含め、安心して頂けるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔から行われている慣わし等を教えて頂ながら、行事の一環に取り入れている。また、日常と一緒に過ごすように作業に関しても協力して頂きながら、ともに時間が共有できるようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常の支援状況を報告しながら、ご家族へ協力を依頼している。また、ご家族とも時間を共有できる機会を作るために、行事への参加の働きかけも行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係が築けるような、支援や機会の作成に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの関係が継続出来るように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係の把握に努め、補佐的になりながら孤立しないように、交流できる機会を作っている。		

グループホーム 湘南の宙

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要なお家族に対しては、相談支援の可能な連絡を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向の把握に努め、問題視点の支援計画にならないように注意して作成している。	○	主訴が出来ない入居者の情報収集も含め、ニーズ把握に力を入れてゆき、より良い支援計画が作成できるように努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報として聞き入れを行い、聞き入れた情報も含み支援計画の作為をしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々に応じた日常生活が過ごせるように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	支援計画に付いてはご家族へ送付し、意見や希望の確認を行っている。ご意見等については、支援計画に反映するように作成している。	○	ケース会議では、職員が発言しやすい環境を作り、より多くの意見が出るように対応に努めたい。また、司会進行職員に関しては、より多くの職員から情報が収集できるように対応に心掛け、会議の状況がより良いものになるように努めていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援計画に付いては、年に2回見直しを行いながら作成し、ご家族へ送付している。また、支援の内容に関しては、状況により、随時見直しを行っている。		

グループホーム 湘南の宙

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に関しても支援計画へ反映できるように書式変更し、支援計画の項目に沿って内容を記載しているため、個別記録が、支援計画に反映できるようになっている。	○	反映できるように書式変更しているが、記録に関して全体職員で記載を努めて行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の希望や要望に対して、対応できるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアに協力を依頼ながら、余暇支援の協力を頂いている。近隣高校の授業の一環としての対話交流を受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅支援事業所への相談暦はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議以外では、現在、包括支援センターとの協議はしていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GHでの通院に対しては、基本的にはご家族支援に基づき行うことになっている為、医療機関の選択は、ご家族に一任している。病院の選択の説明に関しては、入居時に行っている。		



グループホーム 湘南の宙

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の主治医は、内科医だが協力体制は出来ており、適切に対処をして頂いている。また、医師の判断にて専門医の紹介にて対応している事例もある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護師との相談体制は出来ている。また、同一法人の訪問看護ステーションも週1回、健康管理のために訪問しているため、相談や指導を受けることが可能な状況となっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者との情報交換や相談を積極的に行っている。また、退院後に関しても、情報提供して貰う機会を作り、居室の整備や状況を職員に周知することが出来るように連携に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として、終末期ケアに関する指針を作っている。また、終末期ケアに関する研修については、積極的に職員を派遣している。終末期ケアに関しは、主治医により、ご家族へ向けての話し合いも含み行い、家族の要望等に関しても医療機関、GHで共有できるようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアの導入の際に、主治医、ご家族、GH間で話し合いを行い、対応方針を定め、対応できることや病院へ搬送する内容等に関して協議を行っている。また、状態の変化によっては、訪問看護師の導入も行える体制を作っている。また、他ユニットにて終末期ケアの実践もあり、訪問看護ステーションの看護師による、終末期ケアに関する研修の実施や主治医との連携等の対応事例もある。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居に際しては、ご家族の不安の軽減になるように十分に説明を行っている。また、在宅へ戻る際は、居宅介護支援事業所と今後の対応について、ご家族に確認後情報提供を行っている。		

グループホーム 湘南の宙

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関しては、十分に配慮した対応に努めている。また、個人情報にかんしては、職員のみならず、関係機関からも個人情報保護に関する指針に基づき、同意書を作成してもらっている。	○ 個人に対する声掛けに対して、継続的に注意して行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の状況に合わせた、働きかけに配慮している。自身の希望や自己決定に配慮した対応に心掛けている。	○ 主訴に対して困難さの見られる方への対応について継続的に力を入れて行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自身のペースで日常生活が過ごせるように配慮している。声掛けは行うが、参加に対しては、個人の決定を優先している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容に関しては、髪の状態に合わせて、声掛けを行い確認し、美容室等を利用している。場所に関してもご本人の意向により決定し、行き慣れた場所に関しては、ご家族へ依頼を行っている。また、日常の整容については、個人の状況に合わせて対応を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と相談をしながら献立の作成をしている。また、食事の下拵えや準備についても個々の状況に合わせて、協力して頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	事前面接の際に嗜好調査を行い、状況に合わせ、代替食や食事形態の変更を行い、個人の嗜好や食事形態に努めている。また、飲酒に関しては、ご家族の理解や病状に対し問題がない場合については、他者に迷惑を掛けない事を条件に晩酌として行うことも可能。	

グループホーム 湘南の宙

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の状況に合わせて、トイレ誘導や随時交換の働きかけを行っている。また、オムツ類の種類に関しても、個人の状況に合わせて使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に関しては、基本的に毎日実施し、声掛けをしながら入浴を行っている。また、入浴に関しては、最低週2回の入浴が確保できるように促している。在宅酸素を使用している方に関しては、医師と相談し、看護師が対応し、酸素や身体状況により、清拭にて対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝前に牛乳を飲んだり、個人が安心して就寝できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の状況に合わせて役割を見出しながら、日々の生活に配慮している。また、事前面接に情報収集した、生活暦等の		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居契約時に所持金の管理の説明を行い、所持に関してはご家族に一任するが、紛失してもかまわない金額にてお願いしている。また、自己管理の困難な方については、立替金にて対応し、買い物を楽しんでいただけるように配慮している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の希望にて散歩や買い物へ出掛けている。また、個人の状況により、声掛けをして外出を行い、行事としての外出は、概ね月に1度のを計画している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホーム周辺以外の外出に関しては、ご家族へ確認し対応を依頼している。ホームでの外出については、状況にあわせて対応を検討している。		

グループホーム 湘南の宙

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により、電話連絡の希望のあった際は、対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は、基本的に居室にて対応し、ゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。面会時間についても定めなく、本人が起きている時間であり、他者に迷惑のない時間帯にてお願いしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設立し、身体拘束への理解を深めている。また、身体拘束ゼロの手引きを参照しマニュアルを作成し、職員に周知している。身体拘束委員会で話した内容に関しては、職員会議を使用し周知に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階玄関の鍵に関しては、防犯上施錠をしているが、その他に関しては、行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の日常に関しては、プライバシーに配慮しながら見守りを行っている。危険予測に関しては、ヒヤリハットを導入し、危険な場所や状況の認識を深めるように努めている。	○	ヒヤリハットの提出が少ないため、積極的な提出を職員へ継続的に意識付けて行きたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品等については、薬品箱へしまうように職員間で統一し、危険に対して注意している。また、包丁等に関しても使用後に本数を確認することで、所定の場所にて管理している。裁縫道具に関しても、同様に使用後の確認の徹底している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの導入と事故報告書の作成にて、それぞれを職員へ回覧し事故に関しての認識が深まるように努めている。また、職員会議にて、法人内のGH間での相互的な理解につながるように、事例として報告も行い、危険予測に関しても会議中に学べる機会を作っている。	○	ヒヤリハットの適切な提出により、危険への情報の収集に努め、危険予測から事故の防止につながるように努めて行きたい。

グループホーム 湘南の宙

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部研修の際に消防署員による応急手当や救急法の研修を実施し、訪問看護師による、病気や怪我等への対応の研修も行っている。	○	新たに内部研修にて行える研修内容の検討にて、全ての職員が対応できるように努めていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回の防災訓練では、火災や地震想定を計画的に実施し、9月1日震災記念日では、ホーム駐車場にて釜を使用して炊出しを利用者とともにしている。また、正職員・契約職員を対象に厚木総合防災センターにて、消化体験等の防災体験を実施している。防災訓練では、119番通報訓練も実施し、防災意識を深めるように努めている。	○	的確に職員の避難誘導が出来るように、また、防災意識が高まるように継続的な訓練の継続に努めて行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状況により、個別に起こりうるリスクに関しての説明を行い。病状に関しては、主治医と連携をしてご家族へ伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の体調の変化に対し、早期発見、早期対応に心掛けている。申送り等にも配慮し、情報の共有化に努めている。また、状況に合わせ、協力期間との連携や訪問看護ステーション看護師と連携して個々の対応に努めている。	○	継続的に看護師からの指導も含め、個々の状況に配慮した対応に努めて行きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している内容に付いては、常時職員が見ることが出来るようにファイルを作成し、服薬変更時には、連絡ボードを使用し共有できるように対応している。服薬対応時の注意事項に関しては、薬箱にはり対応する職員が確認出来るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に付いては、個別の排便状況に注意して運動療法や下剤等の使用にて適宜に排便があるように心掛けている。下剤を使用しても排便の確認が出来ない際は、協力医療機関へ指示を仰いだり、訪問看護師の訪問時に摘便にて対応することもある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個別の支援計画に基づき対応し、個人の生活暦に合わせた、口腔ケアへの働きかけを行っている。		

グループホーム 湘南の宙

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の摂取状況の把握に努めている。また、食事の提供に関しては、栄養士により1週間単位で提供状況の調査を行い、バランスの取れた食事の提供に努めている。病状により、食事提供に関して注意の必要性のある方に付いては、栄養士が個別に調査を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関しては、感染症予防マニュアルを作成し、職員への周知に努めている。また、協力医療機関や訪問看護ステーションからの指導を受けることの出来る体制が作られている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に関しては毎日購入し、新鮮何物が使用できるように配慮し、食中毒に関しても栄養士との相談や指導にて予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階の玄関については、親しみのある木製のドアやステンドガラスを使用している。また、玄関スペースには、入居者の方と植える機会を持つようにプランターを置いている。3階の玄関フロアは、マッサージチェアや装飾品を飾り、温かみを感じられるように、また、過ごしやすいうように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は過ごしやすく感じる事が出来るように、照明や音に配慮している。居室内の温度については、湿温度計を使用し配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、入居者同士の交流が持てる場所を作っている。居室だけではなく、玄関フロアも活用し、一人で過ごす事が出来るような環境作りに努めている。		

グループホーム 湘南の宙

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、以前からご本人が使用していたものを持参頂くように説明を行いながらお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	風邪予防も含め、居室内の温度へ配慮し、湿温度計を使用し快適に過ごせるように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は、バリアフリーの空間になっており、適宜の場所に手すりを完備している。また、浴室内や洗面所にも入居者の状況によって手すりをつける等、安全に日常生活が過ごせるように努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状況に合わせて、補うことで自立が出来るように支援計画の作成に心がけ、職員間で情報の共有化が出来るように連絡ボードを活用や申し送りの徹底に努めている。	○	アセスメントの徹底とニーズの把握に努め、より良い支援計画の作成が出来るように継続的に努めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関スペースを使用し、プランター栽培や近隣の畑を使用し作物を育て、入居者の皆さんと収穫を楽しむ機会を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



グループホーム 湘南の宙

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム湘南の宙と風
(ユニット名)	湘南の風
所在地 (県・市町村名)	平塚市田村5-3-6 Gタワービル3F
記入者名 (管理者)	益井正純
記入日	平成19年 7月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	運営推進会議を活用しながら、地域に根ざせるGHになるように努めていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	○	近隣の方との交流に関しては、挨拶等で交流は、深められつつあるが、固定した方だけでなく、その他の方にも行事参加できるように働きかけていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	運営推進会議を活用しながら、地域での活動できる情報の収集を行い、より多くの地域行事に参加出来るようにしていきたい。

グループホーム 湘南の風

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現在の時点では、地域高齢者への働き掛けは行っていない。</p>		
<p><b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b></p>				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価の改善項目に付いて、職員へ説明を行い、改善に向けて働き掛けている。また、外部評価の結果は、会議で全体へ報告し、外部評価の必要書類及び結果表は、職員が常時見る事が出来るようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成19年1月・4月と開催し、外部評価の結果報告を行なっている。また、法人理念の説明や年間の事業計画・行事報告・計画の話を行なっているGHへの理解を求めている。</p>	○	<p>定期的な開催に努め、地域の方に当GHの理解も含め、地域活動に通じるように、ご意見を頂けるように行なって行きたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には、市町村の参加は無いため、市内グループホーム連絡会の際に情報提供をしてもらっている。また、協力依頼に関しては、市職員へ話している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する研修には、職員を参加させ、必要な方に対しては、活用している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>現在高齢者虐待防止関連法について積極的に学ぶ機会を作っていないが、身体拘束委員会も設立をし、利用者に対しては、最善が尽くされるように努めている。</p>		

4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、時間をとり十分の説明ができる様に配慮している。説明後も、疑問点等の確認を行いながら、契約を行なっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会話の中で、情報が収集できるように配慮している。また、外部者としては、現在GHに来ていないが、介護相談員の派遣依頼は平塚市へ申し出を行なっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の突発的な状況変化に対しては、電話連絡にて報告を行い。その他の日常的な報告については、近況報告として、月に一度書面にて報告を行い、行事や全体的な活動状況の報告は、通信として隔月に送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会を年2回行い、GHの状況報告を行っている。また、その中で、質疑としての時間を作り、ご家族からの意見徴集ができる機会を作る。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員の意見を聞き、運営者へ伝えるようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に合わせて対応している。		

グループホーム 湘南の風

18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動や離職で職員が変わっても同じ支援が提供できるように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>育成する計画をたて、研修参加の決定やアドバイスをしている。</p>	○	<p>運営者との相談を密に行ないながら、人材育成に努めていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協議会に加入し、研修の参加や同業者との交流の機会を持ち、市システム会議内の、グループホーム連絡会として、意見交換や研修や交流が行える機会を持っている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員からの悩み等の聞き入れやアドバイスを行っている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営目標を職員が作成し、その目標が達成できるように、面接時や日常業務を通じてアドバイスを行っている。</p>	○	<p>目標面接の際に、適宜なアドバイスができるように、管理者として配慮し、個々の職員の向上心に配慮していきたい。</p>

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接を行い、その際に本人が困っている事も含め、状況を確認している。利用開始日には、面接に行った職員が迎える事が出来るようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談を受け、利用する方の状況を確認し、施設見学の際に本人の状況確認や利用にあたっての不安等の聞き入れに努め、対応している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を行った情報を元に、職員に、支援の内容や生活での注意点を報告する。その月に会議を開催し、他職員からの情報収集を行い、支援計画を作成している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時にご本人へ入居の確認を行い、同意が頂けない場合は、体験入居を行い、GHの雰囲気を分かってから入居して頂く機会も作れるようにし、家族からも情報を頂きながら本人への支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔から行われている、慣わし等を教えて頂きながら、行事の一環にとり入れや、日常と一緒に過ごすように作業に関しても参加して頂きながら、時間の共有が出来るようにしている。		

グループホーム 湘南の風

28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日常生活の支援状況を報告しながら、ご家族へ協力依頼をしている。共に時間を共有できる機会として、行事への働きかけも行っている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>関係が築けるような、支援や機会の作成に努めている。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人の馴染みの関係が継続的に行えるように努めている。</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>関係の把握に努め、補佐的に成りながら孤立しないように、交流できる機会を作っている。</p>		
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>必要なお家族に対しては、相談支援の可能な連絡を行っている。</p>		



Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向の把握に努め、問題視点の支援計画になら無いように注意して作成している。	○	ニーズの情報収集に力をいれて、本人本位の対応をしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報として聞き入れ、情報を元とした内容も支援計画にとり入れている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々に応じた日常生活が過ごせるように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	支援計画に付いては、ご家族へ送付し、意見や希望の確認を行っている。意見等に付いては、支援計画に反映するようにしてる。	○	ケース会議の折、多くの職員から情報を提供してもらいながら作成し、本人のニーズの分析を含めながら行なっていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援計画に付いては、1年に2回見なおしながら作成している。支援内容に付いては、状況により見直している。		

グループホーム 湘南の風

38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録も支援計画へ反映出来るように、書式変更を行いながら、情報の共有や支援計画の見なおしに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の希望や要望に対しては、応じることが出来るように支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの協力を得ながら、余暇支援を行っている。また、ボランティア協力の依頼は行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在まで、居宅支援事業所への相談歴はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、運営推進会議意外では、包括支援センターとの協議はしていない。		

グループホーム 湘南の風

43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>GHでの通院に対しては、基本的には、ご家族の支援に基づき行うこと成っている為、医療機関の選択はご家族に一任している。説明に関しては、入居時に行っている。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>主治医は内科医だが、協力体制は、できあがっており、適切な対処をして頂いていると考える。また、専門医への紹介も行って頂いている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>協力医療機関の看護師への相談体制はもとより、週に一度訪問している、訪問看護ステーションとも相談等が行える体制が出来ている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院関係者との情報交換や相談を含め積極的に行っている。また、退院に対しても情報提供を貰うことにより、整備を行う機会の確保も行っている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>法人として、終末期のケアに関する指針をつくり、終末期ケアに関する研修には、積極的に職員参加の機会を作っている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期に関する指針に関しては、GHとして対応の出来る状況を想定し作成されている。終末期のケアに関しては、指針に基づき行ってゆく。また、医療機関としては、対応に向けての対応へ向けての依頼は、協力医療機関へ話しをしている。</p>		

グループホーム 湘南の風

49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>グループホームを退去する際には、状況報告を行っている。また、在宅へ戻る際は、居宅介護支援事業所とも連絡をとり、情報交換も行なっている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーに関し、十分配慮し対応している。又、個人情報に関しては、関係機関、職員から同意書を貰うようにしている。</p>	○	<p>声掛けに対し、十分注意してゆくように継続的に注意していきたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個人の状況に合わせた働きかけに配慮している。自身の自己決定や希望に対しては叶えることができるように対応している。</p>	○	<p>自己表現の困難さが見られる方への配慮に力を入れていきたい。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個別のペースで日常が過ごせるように、配慮している。日常生活についても声掛けは行なうが、参加に対しては、ご本人に決定してもらっている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理美容に関しては、髪の状態により、本人に確認し、理容・美容室を利用している。場所に関しても本人の意向により決定をしている。日常の整容に関しては、個人の状況に合わせて働き掛けを行なっている。</p>		

グループホーム 湘南の風

54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と相談しながら献立を作成している。また、食事の下拵えや準備については、協力を依頼しながら行なっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	事前面接時に、嗜好調査を行い、食べられない物については、代替食にて対応し、個人の嗜好に合わせた食事提供に努めている。状況にもよるが、居室内にて、他者へ迷惑を掛けないことを条件に、晩酌を行なうことも可能である。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の状況に合わせて、トイレ誘導や随時交換の働きかけを行なっている。オムツ類の使用に関しても、段階を踏んで使用をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に関しては、基本的に毎日行い、ご本人に声掛けを行ないながら、入浴をしている。また、入浴の回数も、最低週2回はできるように、促しながら行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝前に牛乳を飲んだり、個人が、安心して就寝できる状況に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の状況に合わせて、役割を見出しながら日々の生活に日慮している。又、生活歴やご家族から情報を頂きながら、余暇活動への支援を行なっている。	○	個別ニーズの収集やご家族からの情報収集へさらに力を入れて対応していきたい。

グループホーム 湘南の風

60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居契約時、紛失しても構わない金額であれば、ご本人管理をしてもらっている事を伝え、自己管理している方もいるが、金銭管理が、困難な方については、ホームにて立替える状況で、買い物を楽しんでいただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の希望にて、散歩や買い物へ出かけている。また、希望の申し出が、困難な方については、声掛けをしながら外出を行なっている。外出行事については、概ね月に1度計画している。	○	自己表現の困難さが見られる方への配慮に力を入れていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホーム周辺以外の外出の希望については、ご家族へ相談し、対応を依頼している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の状況により、電話の希望があった際は、連絡をさせて頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は、基本的に居室にてゆっくりと過ごしていただけるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設立し、身体拘束に関しての理解を深めている。また、会議に参加していない職員への報告も職員会議を使用して行く。	○	身体拘束への理解が全体職員へ根ざすように努めていきたい。

グループホーム 湘南の風

66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階玄関の鍵については、防犯上施錠をさせて頂いているが、それ以外に関しては、施錠をしないように行なっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の日常に関しては、プライバシーに配慮しながら見守りを行なっている。危険に関しては、リヤリハットも導入し、危険場所の認識を深めている。	○	ヒヤリハットへの積極的な記載を職員へ働きかけ、危険への情報の収集を行い、事故防止に努めてゆきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品等については、薬品箱にしまうように職員間で調整をとり、危険に対して注意している。又、包丁等に関しても本数の確認や使用後は、きちんと所定の場所へ戻すようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの導入と事故報告書の作成を行い、今後の事故対策について配慮している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部研修の際に、消防署員による応急手お手の研修の実施している。又、今年度、内部研修にて救急法の研修を取り入れる予定としている。	○	内部研修の充実を図り、全ての職員ができるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間4回の火災や地震を想定した避難訓練の実施を行なっている。又、消化訓練として防災センターを使用した訓練も予定している。	○	的確な避難誘導ができるように、防火管理スタッフで相談を行い、職員へ指導していきたい。

グループホーム 湘南の風

72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状況により、個別に起こりうるリスクに対して説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個別の体調の変化に対し、早期発見、対応に心がけている。申し送り等にも配慮し、情報の共有化に努めている。状況により、協力医療機関への働きかけも行っている。	○	祝祭日や夜間に体調不良が起きないように日常の体調状況の把握に努め、安心した生活が過ごせるように配慮していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人が服用している内容については、常時職員が見ることができるようにし、服薬の変更については、連絡ボードを使用し、共有できるようにしている。又、服薬に対しての注意については、薬箱には、職員が常時見ることができるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘について、個別に排便状況に注意して、運動療法を取り入れたり、下剤を使用して、排便の状況の改善に努め、状況に応じ、主治医に連絡し処置への依頼や支持を仰いでいる。又、会議にて便秘に対しての理解を深めることができるように、配慮している。	○	個々の排便状況の把握から、適切な排便へつなげていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	支援計画にも個別に応じて口腔ケアに関する計画を立て、働きかけを行なっている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の摂食状況の把握に努めている。又、食事の提供に関しては、栄養士により1週間単位で提供状況の調査を行ない、バランスの取れた食事の提供に努めている。個別に注意しなければいけない方については、栄養士による個別調査を行なっている。		



グループホーム 湘南の風

78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対しては、感染症予防マニュアルを作成し、職員へ周知している。	○	内部研修へ組み込み、適切な知識が持てるように支援していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に関しては、毎日購入し、新鮮なものが使用できるように配慮している。食中毒に対しても栄養士より指導を受けながら実施している。		
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階の玄関については、親しみのある木製のドアやスタンドガラスを使用している。また、玄関スペースには、利用者の方と植える機会を持つようにプランターを置いている。3階の玄関フロアーは、マッサージチェアや装飾品を飾り、温かみのある物に感じるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、過ごしやすく感じる事ができる様に、証明や音に配慮している。居室内の温度の湿温計を用いて快適に過ごせるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを置き、利用者同士が交流を持てる場所を作っている。玄関フロアー等も用いながら一人になる状況も作れるように配慮している。		

グループホーム 湘南の風

83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、以前からご本人が使用しているものを持参していただくように話をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	風邪予防も含め、居室内の温度へ、配慮し、湿温計を用いて快適に過ごせるように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー出入り口やトイレへ行く際に段差はあるが、手すりの設置がしてある。フロアー内は、バリアフリーの空間となっており、適宜の場所に手すりを完備している。又、浴室内や洗面所にも手すりを設置し状況に適した対応に努めている。	○	段差にて転倒歴もあるため、個人の状況の見守りの徹底を行い、事故防止に努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状況に合わせた、自立を目指し支援計画を作成し、職員間で共有できるように配慮している。	○	個々の状況の把握に努め、より良い支援計画の作成に努めていきたい。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関スペースを用いた、プランター栽培や近隣の畑を使用し、作物を育て、収穫を楽しむ機会を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホーム 湘南の風

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)